



edited by dr. masato mugitani
vol.5-no.8

YouTube のカード・マジック

麦谷真里

(まえがき)インターネットが普及して、手品の実演も、YouTube などで観られることが多くなりました。その中で、不思議な現象を見せてくれるカード・マジックがときどきあります。いわゆるカメラ・トリックではありません。動画なので、観ていると本当に不思議です(写真831)。

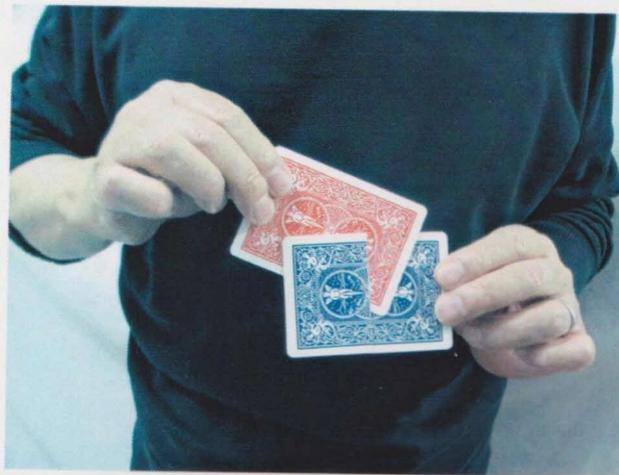


写真831

そこで、今回は、この種の YouTube 動画のカード・マジックを取り上げることにしました。この分野の手品の特徴は、ほとんどが角度に弱いことです。いわゆるアングル・プルーフではありません。

せん。もっとも角度に弱いからこそ、YouTube にアップしたとも言えるでしょう。ものによってはクロス・アップでできないことはありませんが、せいぜい正面から観ている数人が対象で、かつ、ものすごく近い距離では無理なものが多いです。さらに、デッキの中からカードを出して演じる演出もできないわけではありませんが、少なくとも、いま演っている人の中にはそのような手法を採る人はいません。そういう意味では、単体の手品です。それでもいろんな種類があって面白いので、けっこう自分でもやってみたくになります。

1. カードの交差

[現象]マジシャンが左手に持った1枚の青裏のカードに、右手に持った1枚の赤裏カードが上からゆっくり交差して下へ抜けます(表紙の写真831)。

[必要なもの]

- ①青裏のカード 3枚
- ②赤裏のカード 1枚
- ③薄いネオジウム磁石 2枚
- ④薄い鉄板 1枚

[準備]

- ①青裏のカード2枚を中に鉄板を入れて貼り付けます。通常のカードは3層構造から成っていますから、できれば、厚みを隠すために、両方を一度厚みの3分の1ずつ剥してから貼り付けたほうが無難です。
- ②もう1枚の青裏のカードを横方向に半分に切って、この中にネオジウム磁石を埋め込みます。これも3分の1ずつ剥してから磁石を入れて貼り付けたほうが厚みがなくていいです。
- ③青裏のギミックの完成したものを写真832に示します。ただし、カードは離れたままです。

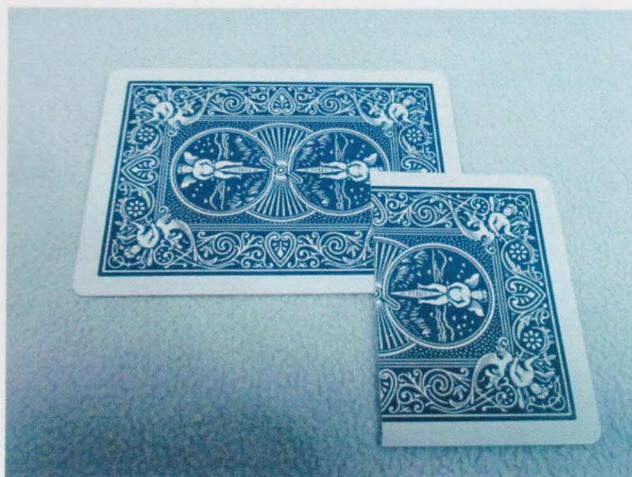


写真832

- ④赤裏のカードには仕掛けがありません。

[やり方]

- ①左手にカットした半分を磁石でくっつけた青裏のカードを、裏を客側に向けて持ちます。右手は、指先に赤裏のカードをやはり裏を客側に向けて持ちます(写真833)。



写真833

- ②この状態で、右手の赤裏のカードを、左手の青裏のカードの半分の切れ目から入れます(写真834)。



写真834

- ③そして、そのままゆっくりと赤裏カードを下降させ、半分の青裏カードの下を完全に通り抜けて下へ抜いてしまいます。これは、青裏の半分が磁石で下の青裏カードにくっついているため、赤裏カードは、あたかもその間を通過するような形になります。ネオジウム磁石の磁力が強いため、間に赤裏のカードが差しこまれたくらいでは、磁石でくっついている2枚の青裏のカードの磁力には影響がありません。
- ④右手の赤裏カードが通過したら、左右のカードを表向きにして見せます(写真835)。赤裏のカードには仕掛けがないので公明正大ですが、青裏のカードも半分が磁石でくっついているのは裏側のほうで、表は、普通の仕掛けのないカードに見えますから、両手のカードを表向きに示すことは非常に効果的です。ただし、青裏のカードを表向きにひっくり返すときに、くっついて

いる半分のカードの厚みに気づかれないようにひっくり返してください。



写真835

2. カードの縦型交差

[現象]水平に持った1枚のカードを、別の1枚のカードが上から下へ通り抜けます(写真836)。



写真836

[必要なもの]

- ①青裏のカード 2枚
- ②赤裏のカード 1枚
- ③薄いネオジウム磁石 4個

[準備]

①青裏のカードを縦に半分にします。この表側に別の青裏のカードを2cm幅くらいに切って、1cmの部分だけ、糊で貼り付けます。さらに、残りの1cm部分の上下にネオジウム磁石を貼り付けます。また、一方の1cm幅のほうには、後からカードを挿入しやすいように窓を切っておきます(写真837)

②残った青裏カードの部分は使いません。

③赤裏カードは何も仕掛けをしません。

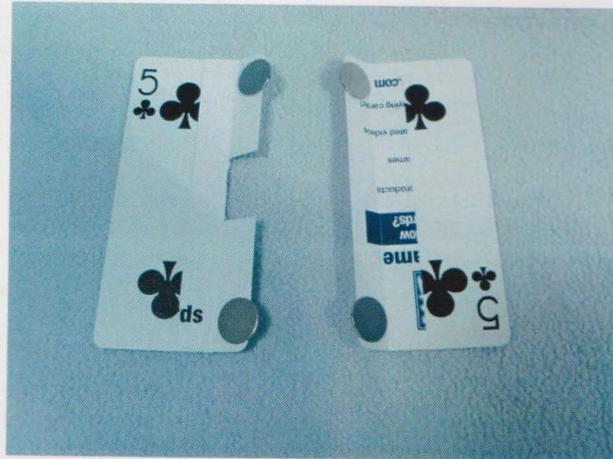


写真837

[やり方]

- ①左手に青裏カードを裏向きに水平に持ちます。表側が観客に見えないようにアングルを注意してください。
- ②赤裏カードを右手に持って(これは裏向きでも表向きでもかまいません)左手の青裏カードの窓の部分に上から入れて行きます。途中まで入ったら、一旦、右手を放し、右手を青裏カードの下に回して、赤裏カードを下方へ抜きとります(写真838)。



写真838

- ③青裏カードはずっと磁石でくっついているため、離れることはありません。赤裏カードを青裏カードの下から抜きとるときも、青裏カードの表側が観客に見えないように注意します。

3. 4つ折りになったカードのカラー・チェンジ

[現象]これも非常に鮮やかな現象です。マジシャンは4つ折りになった赤裏のカードの両面を示します。この赤裏の4つ折りカードを掌に置くと、一瞬にして青裏になります。青裏になった後は、4つに折り畳まれていたカードを元通り開いて、両面を見せます。確かに1枚の青裏のカードです。

[必要なもの]

- ①青裏のカード 2枚
- ②赤裏のカード 1枚
- ③薄いネオジウム磁石 4個
- ④鉄板 1枚

[準備]

- ①赤裏のカードを半分に切り、その表側に、ネオジウム磁石を4個貼りつけ、上方に4分の1に切った青裏カード、下方には薄い紙を貼り付けます(写真839:向こうは鏡)。



写真839

- ②残っている半分の赤裏カードから4分の1を切りとり、この表側に鉄板を貼り付けておきます(写真840:向こうは鏡)。



写真840

- ③もう1枚の青裏のカードは完全なままで4つ折りにします。
 - ④加工が終わったら、一度、組んでみます。
- まず、四つ折りにした青裏カードを横方向に2つ折りにした状態で、開いた左掌の上に置きます

(写真841)。次に、この上に①で作った赤裏のカードを赤裏の面が上になるようにして載せませ
(写真842)。この重ねたカード群の向こう側4分1に②の鉄板を付けた4分の1の赤裏カードをく
っつけます(写真843:向こうは鏡)。



写真841



写真842



写真843

[やり方]

- ①[準備]の項でセットした状態で、右手の指先で、4つ折りカードを半分開いた状態で観客 (YouTube の観客)に見せます。4つ折りにした赤裏カードに見えます。裏側が少し見えても大丈夫ですが、右手の指先で持っている部分は青裏ですから見せられません(写真844)。



写真844

- ②左掌を出して、この上に右手指先で持っている4つ折りカードを落とします。すると一瞬で全体が青裏に変わります(写真845)。



写真845

- ③青裏に変化した四つ折り部分の上側を左手で、下側を右手の指先で持って、このままの状態から、左手のカードの下半分を右手の指先でカバーしながら、前後にくっつけている4分の1のギミック部分を右手に引いてとってしまいます(写真846)。この動作をしながら、左手に残ることになる青裏カードを広げて、完全に青裏の1枚のカードであることを示します(写真847)。
- ④青裏のカードを拡げているとき、右手は4分の1サイズのギミックをパームしているわけですが、磁石でくっついて一塊になっていますし、実際のクローズ・アップなどでは、このパームしているカードの処理に頭を悩ますところですが、YouTube などでは、左手に拡げた青裏カードの表裏を見せれば、誰も右手は追求しないのでパームしたままで終わります。



写真846

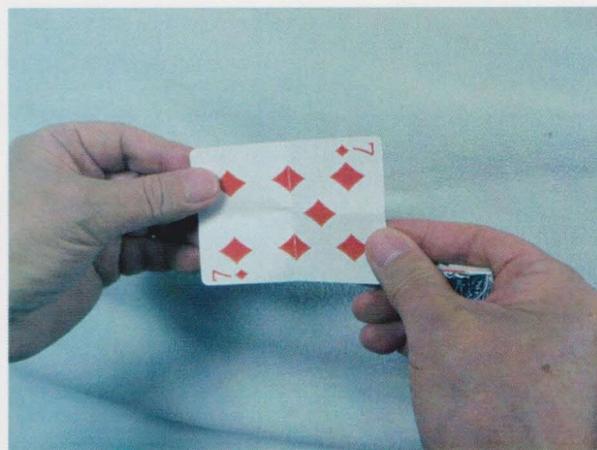


写真847

4. 破ったコーナーが一瞬にして元通りになる

[現象]タイトル通りです。1枚のカードの隅を破りますが、一瞬にして元通りになります。初めて動画を観たときは、てっきりカメラ・トリックだと思いました。

[必要なもの]

- ①絵札のカード 1枚
- ②エラスティックのインビジブル・スレッド 30cm程度

[準備]

- ①カードの一隅(コーナー)を鉋で、手で千切ったようにカットします。ただし、切り口が凹凸にならないように注意して真っ直ぐカットします。
- ②切り取ったコーナーを元通りにくっつけて、その位置で、エラスティック・インビジブル・スレッドで固定します。固定の仕方は決まっているわけではありませんが、写真848のように、一定の強度を持って、コーナーがその位置に留まっているようにします。



写真848

[やり方]

- ①カードをこのままの状態デッキのトップに載せておき、右手で取り上げて、左手に渡して左手に裏向きに持ちます。そして、右手で、予め切つてあるコーナーをあたかも破くような仕草で、切り目に沿って破きます(写真849)。



写真849

- ②破いたら、このコーナーを左手のカードの上にそのまま載せておきます(写真850)。このとき、もし、エラスティック・スレッドが強く、すぐに戻るようなら、両面テープを小さく切って、コーナーの表側の角の隅にくっつけておきます。そうすれば、しばらく固定されています。
- ③このままカードをテーブルの上に置きます。しばらくすると、スレッドのエラスティックが効いてコーナーが元通りの場所に戻ります(写真851)。カードの上に置いたコーナーをよく観ていると、動くタイミングが微妙にわかりますから、そのときにタイミングを合わせて同時に指を鳴らすなどの動きを行いません。観客からは、マジシャンの号令に合わせて、コーナーが復活したように見えます。
- ④コーナーが復活したら、そのままカードを表向きにひっくり返して、表側も完全に復活していることを示します。



写真850



写真851

5. ○と△(丸と三角)

[現象]1枚の絵札の裏に丸い穴が開いています。穴に指を通して、実際の穴であることを示します(写真852)。次に、そのカードを表向きにすると、穴は三角になっています(写真853)。



写真852



写真853

[必要なもの]

- ①絵札 1枚
- ②別のカード 1枚
- ③ゴム・シート 1cm×3cm

[準備]

- ①絵札の枠内の半分をカットし、中央に三角の穴を開けます。
- ②別のカードの半分に①の絵札の三角形より大きい丸い穴を開けます。
- ③①で残った枠と半分の絵札の裏の中央と①の三角穴の枠内絵札の中央とを裏側で③のゴム・シートで繋ぎ留めます。枠内絵札がフラップのように動くことを確認してください。
- ④絵札が完成したら、これを穴が開いてない半分部分だけ②のカードに貼り付けます。
- ⑤以上で、表からは絵札の三角のカード、裏は、丸い大きな穴のところに三角が来ているギミック・カードが完成しました(写真854)。表側のフラップを畳むと、裏側からは、あたかも丸い穴が開いているカードのように見えます(写真855)。



写真854



写真855

[やり方]

- ①フラップを閉じた状態で、カードの裏を見せます。丸い穴が見えます。この穴に、手前からマジシャンの指を通して見せ、確かに物理的に穴が開いていることを観客にも確認させます。
- ②カードを表向きにひっくり返しますが、このとき、フラップを戻して、表に三角だけが見えるようにします。この三角も、物理的に空いていることを示すために、カードの手前から指を宛てて三角窓から指が見えるようにします。

6. コメント

これ以外にも、「四つに破かれた一枚のカードを見せ、4分の1枚ずつ元通りのカードに復活させる現象」(カードを破くところはありません。すでに四つに破かれているカードを復活させるのです)など、いろいろありますが、キリがないのでこの辺でやめます。最後の「○と△」なども、表側の絵札の中央の分かれ目線が見えるので、クローズ・アップで演じるのは無理です。

それにしても、よく考えるものだと思います。

私の友人、杉原厚吉先生によれば、人間の脳は一定の法則や固定観念でものを見るので簡単に騙されるそうです。確かに、YouTube の動画などでは、見えない部分を脳が勝手に補って、裏も同じ色にちがいないとか、まさか、カードが2つに割れていない、などと思い込んでしまうのが驚かされる原因かもしれません。

杉原先生は、もともと数学者ですが、錯視などに造詣が深く、著書も多数あります。「ベスト錯覚コンテスト世界大会」でこれまでに3回優勝、2回準優勝されています。ときどき、テレビ番組にもゲストとして出演されて、さまざまな錯視について解説されるのでご存じの方も多いと思います。写真856は、私がもらった模型で、目の前に見える4つの円柱が、鏡に映すとひとつの円柱になってしまうというもので、模型の高低や隙間から生じる「錯覚」です。また、写真857は、目の前の模型は四角なのに、鏡に映った模型は丸に見える信じ難いものです。これは、カメラ・トリックなどではなくて、私自身は、実際にこの模型を所有していますし、杉原先生からもいろんな実物を見せてもらっていますから、写真によるトリックではありません。このほか考えられない動きをする

動画などもありますので、興味のある方は、書籍を買われるか、動画を検索してみてください。

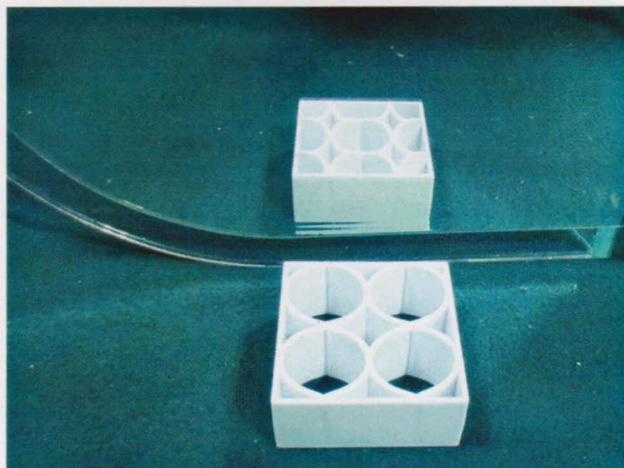


写真856

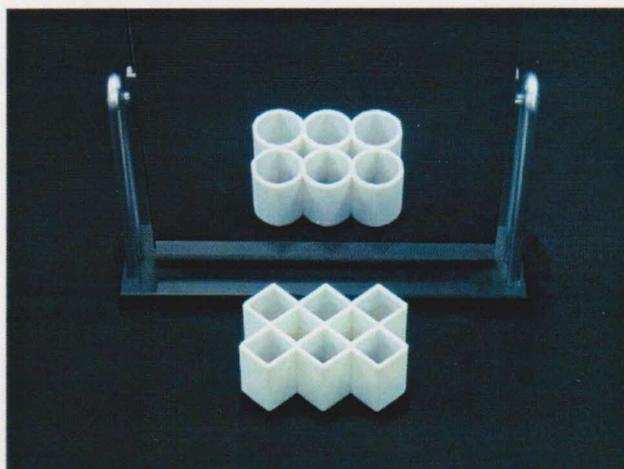


写真857

錯視を手品に応用して商品化したものは、ジャストロー錯視が有名で、(株)テンヨーの「さっかく定規」などがあります。これらの錯視の模型も、角度を一定にした YouTube や写真では見せることができるのに、実物の模型そのもので見せることができない事実は、今回取り上げたいいくつかのカード・マジックと同じです。そう考えると、角度が限定されていて、目の前の観客に実演して見せたり、観客に用具(カード)を手渡して改めさせたりできない今回のカード・マジックは、手品と言うよりも、むしろ錯視の作品と呼んだほうが相応しいかもしれません。錯視と手品のもっとも大きな違いは、錯視は脳を騙しますが、手品はむしろ心を騙すということでしょうか。しかも手品は、その過程でいくつか周到な伏線を張っておくのも錯視と大きく異なるところです。

これは、aficionado の Vol.5-No.8 です。

郵便の送付先: 〒145-0061 東京都大田区石川町2-33-1-904 マスカレイド

Eメール・アドレス: masqpart4@aol.com

これは、限定100部のうちの09/100です。

(2020年9月)